

4年生 社会「染め物のさかんな新宿区」

目指す児童の姿

- ・問題や課題の解決に向け、見通しをもって粘り強く取り組む子
- ・いろいろな方法で問題や課題に取り組むことで、自分の考えを深める子

《今回の学習内容》

伝統的な染め物産業が盛んな地域である新宿区を取り上げ、「東京染小紋」を題材に学習します。インパクトのある導入や、実物を多用した調べ活動などの工夫により、児童が東京染小紋に興味をもち、新宿区で作られている理由やその作り方、職人たちの思いについて主体的に学習を進められるようにします。

- 1 まず、着物を着た経験を振り返りました。七五三や夏祭りの体験が共有され、柄が大きく色鮮やかだったことを思い出した後、実際に染小紋の着物を着た教員が登場。遠目に見ると無地に見える生地が、実は細かい柄のある生地であることを間近で確認し、学習がスタートしました。



- 2 着用している着物が「東京染小紋」だということ、これは江戸時代から受け継がれてきた、東京の伝統工芸品であることを知った上で、次に端切れをよく観察しました。実物を一人一人が手に取って観察することで、模様細かさや技術の高さを実感しました。

- 3 東京染小紋の工房が新宿に多いことを知り、「なぜ？」という疑問や知りたいことなど、学習問題につながる「？」がいろいろ浮かんできました。児童一人一人が知りたいことを付箋に一つずつ書き出していき、小グループで話し合っ



なぜ、新宿区に集まっているのだろう？



- 4 小グループから出された学習問題を全体でまとめていきます。個人→小グループ→全体とまとめていくことで、一人一人の思いのこもった「新宿区では、だれがどのようにして東京染小紋を作り、どのような思いで受けついでいるのだろうか。」という学習問題が完成しました。